

ふるさと

室蘭市立東明中学校 二年 徳楽 実生

1855年2月7日、日露通好条約が結ばれました。当時自然に成立していた国境をそのまま確認するもので、初めて択捉島とウルップ島の間国境が定められました。また、樺太は両国民の混住の地となりました。この条約は、両国とも全く平和的・友好的な形で合意を達成しています。

私は、日本とロシアの関係が一番良好な時だったと思います。とくに樺太が両国民の混住の地として自然に成立していた、という事実には驚きました。今の状況からだと、信じられないことです。

その九十年後、ずっと北海道の一部として認められていた北方四島をソ連軍が征服してしまったのですが、そのソ連軍のみんながみんな悪い人ではないと思うのです。「ジョバンニの島」をみましたが、確かに金目の物や家を奪っていました。しかし、一緒に歌を歌ったり、遊んだり、優しくしてもらっているシーンも何ヶ所かありました。

上からの命令で征服する、ということになったのだと思います。少なくとも、個人個人の考えでこんなことになったのだとは思えません。

しかし、北方四島に住んでいた日本人がふるさとを奪われたのも、ソ連で重労働をさせられ何人も何人も人が死んだのもまた事実です。現在もふるさとは奪われたまま、墓参りにもいけない人がたくさんいます。

そこで、日本はロシアに北方領土の返還を全部なり、妥協案で二島なり、求めているのですが、私はどちらも反対で、北方四島を、できるなら千島列島と南樺太の現在地図を見ると白い地域を、両国民の混住の地にできればいいのではないかと思います。きっと、ターニャとじゅんぺいみたいに、そのほかの人達みたいに、住んでしまえば意外と仲良くできると思います。

それこそ妥協案じゃないか、と思うかもしれません。しかし、七十年たっているのです。北方四島で生まれ育ったロシア人もたくさんいるはずで、北方

領土を日本が奪還したとしたら、いくら日本が正しかろうと、ふるさとを奪われる人がでてくるのです。そしてその悲しみは、かつて北方四島に住んでいた人なら分かるはずです。

だったら、両方がふるさとにいられるようにすればいいのでは、と、実際に通好条約を結んだころは樺太でできていたではないか、と私は思いました。それに、日本では話を聞いただけで、ロシアが悪者、みたいに考える人がいますが、それは誤解だと一緒に住めばすぐに分かると思います。

私は北方領土を異文化交流の地として発達させ、返還問題でもめていたことを過去の話にしてほしいと心から思います。

「昔はね、日本とロシアでここがどっちのものなのか、ケンカしてたんだよ。」

「えー、うそだー。今はこんなに仲良しなのに？」

こんな会話が現実のものになりますように。